

自然システム学専攻	研究分野	時間生物学	Lab. ID NS03
研究室Webサイト			
研究課題の概要			
<p>1997年、哺乳類の時計遺伝子が相次いで発見され、哺乳類概日リズムの分子遺伝学は確立しました。現在の概日時計発振標準モデルでは説明できていない、新たな分子機構の存在を探る研究を行っています。また、概日リズム発振機構を微分方程式で記述し、数値シミュレーションを用いて実験により新たに発見した分子機構を評価する研究を進めています。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>博士前期課程では、各自のテーマを設定して、哺乳類概日リズムの発振機構の解明を目標として研究を実施します。また、全員で週1回概日リズム関係の論文紹介ゼミを行うとともに、順次自分の研究進捗状況をを発表し、全体で議論を行います。</p> <p>博士後期課程では、上記研究活動の成果を学会と国際誌で発表して、博士論文の完成をめざします。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>概日リズムの周期は約24時間です。サンプリング実験などで研究室に24時間以上滞在することがあります。学生それぞれがもつ固有のリズムに適合した、規則正しい生活が勉学・研究活動を支えます。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>論理的な思考力、適切な実験の計画能力、そして実験の遂行能力をみにつけた、国際的に活躍する将来性豊かな研究者の養成を目標としています。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2018.3	新規 <i>Per1</i> 誘導化合物の位相シフト作用機構の解析		
2017.3	Analysis of Positive and Negative Regulation of <i>Bmal1</i> Circadian Transcription ( <i>Bmal1</i> 転写日周リズムの正と負の制御機構の解析)		
2016.3	哺乳類時計遺伝子 <i>Period1</i> を誘導する化合物の作用機序の解析		
2015.3	哺乳類時計遺伝子 <i>Bmal1</i> の新しい転写制御機構の解析		
2013.3	PACHINCO-RT-PCR法の実験条件の検討		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2018.3	哺乳類概日時計発振に機能する <i>Bmal1</i> 転写制御機構の解析		
2015.9	心疾患既往者を含む一次・二次予防事業対象者における地域高齢者の身体機能特性		
2014.9	活動的歩行の機械的仕事およびトレッドミル水平負荷牽引歩行の換気性作業閾値に関する研究		
2014.3	把握動作における筋力発揮調整能及びその一側優位性		
研究室連絡先メールアドレス		程 肇 <tei*at* kanazawa-u.ac.jp>	